

# 事業実績報告書

韓国語語学研修旅行

団体：R7 韓国語語学講座

【1日目】 2026年1月10日（土）

長崎空港から仁川空港へ直行便を利用して移動しました。出発前のチェックインカウンター周辺では韓国の方を多く見かけ、すでに韓国語が聞こえてくる環境に、これから始まる研修への期待が高まりました。

飛行機の中では、早速韓国語を使って機内食や飲み物の注文に挑戦しました。緊張しながらも自分の言いたいことを伝えられ、早くも日頃の講座での勉強の成果を実感することができました。中には、隣に座った韓国の方とお喋りを楽しむ講座メンバーもあり、初めての実践でも楽しみながら交流を体験することができました。



夕方からは望遠市場を訪れました。今回望遠市場に行ったのは、令和4年10月に長与町で開催された韓国 SARUKODE 国際オンラインツアーで紹介された市場で、韓国人ガイドさんが食べ歩きのできる美味しい韓国料理の紹介をされていて、当時まだコロナ禍で渡韓出来なかった為、いつか実際に行って市場の雰囲気味わってみたいと思っていたからです。

市場では色とりどりの屋台が並び、屋台のおでんやキンパを味わいました。特におでんの屋台では、大きな鍋に串に刺したオムク（練り物）がたくさん入っており、自分で取って食べるという日本ではあまり経験できないスタイルを体験できました。周りには現地の人も多く訪れており、一緒に食べながら会話を楽しむことで韓国の日常文化を肌で感じることができました。



その後、韓国語語学堂の先生と合流しました。自己紹介や韓国語を学び始めたきっかけについての会話を通じて、交流を深めることができました。この日はとても寒か



ったのですが、先生によればそんなに寒くなかったそうで、住む場所が違えば体感もこんなに違うのかと感じました。先生も自身の経験や文化について話してくださり、実りのある時間を過ごすことができました。終始韓国語で話すという実践力が求められる場面でしたが、皆が積極的に会話を楽しみ、現地の方と直接交流することで、言語だけでなく文化や習慣についても理解を深め今回の研修の意義をより深く実感しました。

【2日目】 1月11日（日）

まず、朝食として現地で有名な「シンソンソル ロンタン」を訪れました。ソルロンタンは牛骨を長時間煮込んだ伝統的な韓国料理で、地元の人々にも親しまれている代表的な食文化の一つです。注文から会計までをすべて韓国語で行い、講座で学んだ表現を実際の場面で活用することができました。

韓国料理は「辛い」「味が濃い」というイメージを持っていましたが、初めて食べた本場のソルロンタンは、しっかりとした旨みとコクがありながらもクセのない優しい味わいで、大変美味しくいただくことができました。辛味はなく、辛い料理が苦手な人でも安心して食べられる料理であると感じました。また、食べ放題のキムチやカクテキが付いており、好みに応じて辛味を加えながら味の変化を楽しむ点も、韓国ならではの食文化の特徴だと感じました。



当日は寒い朝でしたが、温かいスープにより体の芯から温まり、現地の食文化を五感で体験する貴重な機会となりました。

朝食後、宿泊ホテル近くの明洞大聖堂に行きました。ここは、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコ（国連教育科学文化機関）世界文化遺産に登録される際、そのPRが行われた場所です。

長崎の教会群と同様に、街の中で大切に守られてきた文化的資産であり、人々の生活とともに歴史が育まれてきた点に、長崎との共通性を感じました。

明洞の賑やかな街中に位置しながらも、聖堂内は静かで厳かな雰囲気にも包まれており、心が洗われるようでした。聖堂内のステンドグラスから差し込む光が美しく幻想的でしたが撮影することさえ憚られるほど静謐な空間であり、その美しさを心に刻むように何度も目のシャッターを切りました。韓国の方々だけでなくさまざまな国の人々が訪れ、互いを思いやりながら見学する様子に、文化や人種を超えた国際交流の場となっていることに深い感銘を受けました。



この日は、午後に参加者一人一人ができるだけ韓国の方と交流するために2時間程度自由時間を設けました。それぞれが、買い物したり、地下鉄やタクシーで移動しながら韓国の方と交流できました。



その後、教保文庫 光化門店に全員集まった後、光化門広場を訪れました。

景福宮の正門である光化門の前には広大な広場が広がり、北漢山を背景に高さ約6メートル、幅約4メートルの世宗大王像が堂々と鎮座していました。韓国独自の文字「ハングル」を制定した世宗大王の像を実際に目にすることで、韓国語を学ぶ者として大変意義深い訪問となりました。



この日はとても天気が良く、晴れ渡る青空も相まってその光景は圧巻であり、強い印象を受けました。

また、周囲にはソウルの高層ビル群が立ち並び、一方で、目の前には歴史ある景福宮が広がっており、現代都市と歴史的建造物が共存する景観に、韓国の「伝統と現代の融合」を強く感じました。この対比的な風景は特に印象深く、韓国の文化と発展の歩みを実感する貴重な機会となりました。

この後、景福宮を見学する予定でしたが、今回は時間の都合上、内部までは見学することができず、とても残念に感じました。しかし、外観からでもその壮大さと歴史的価値を十分に感じることができ、次回は宮

殿内部をじっくり見学することを目標にしたいという新たな学習意欲につながりました。

その後、清溪川周辺を散策しました。清溪川はソウルの都市中心部にありながら、自然と調和した空間が整備されており、市民や観光客に癒しをもたらす美しい散歩道となっていました。川沿いには噴水や壁画、アート作品などが点在しており、歩きながら多くの見どころを楽しむことができました。

訪問時には、伝統和紙で作られたランタンとメディアアートが融合した装飾が施されており、韓国の伝統文化と現代技術が調和した演出に強い印象を受けました。これにより、韓国の季節行事や文化的演出に触れることができました。夜にはライトアップされ、幻想的な雰囲気になると聞き、次回はぜひ夜の時間帯にも訪れてみたいと感じました。周辺にはおしゃれなカフェも立ち並んで



おり、散策の途中で休憩を取りながら、カフェから清溪川の風景を眺める時間も印象的でした。都市の活気と自然の落ち着きが共存する空間に触れることで、韓国の都市づくりや文化的感性を実感する貴重な機会となりました。

昼夜、季節によってもまた違った楽しみ方ができる場所で、自分の住んでいる街にもこんな素敵な場所があれば、毎日入り浸ってしまいそうです。

【3日目】 1月12日（月）



朝から明洞を訪れ、海苔屋のお店の方と交流しました。実は初日にお店の前を歩いているところで声をかけてくださり、その後仲良くなったことをきっかけに改めてお店を訪れました。お店で扱っている韓国海苔は、油でベタベタしていないのが特徴で、味や食べやすさについて丁寧に教えていただきました。また、ザクロ茶を振る舞ってくださり、女性の体に良い飲み物であることを知りました。こうしたやり取りを通して、体のために食を大事にするという考え方が、韓国

の食文化の中に自然に根付いていることを改めて感じました。

最初は通りすがりだった私たちに対しても、温かく迎えてくださったことが印象に残っています。お店の方との会話でも韓国語でコミュニケーションを取ることができ、ここでも日頃の学習の成果を実感することができました。最後には記念に写真も撮り、交流の楽しさと温かさが心に残る、思い出深い時間となりました。

帰国前には仁川空港の第2ターミナル3階にある免税店エリアで、韓国伝統文化センターを訪れ、伝統工芸品のストラップ作りを体験しました。タブレットで制作過程を見ながら真似して作るのですが、少し難しい部分もあり、そのときはスタッフの方に聞きながら進めました。韓国語を使って会話をするのはとても楽しく、こちらが間違えても優しく訂正しながら教えてくださいました。



この韓国伝統文化センターでは、訪れるたびに異なる工芸品を無料で作らせてもらえるそうなので、またぜひ行ってみたいです。

帰りの飛行機は、仁川空港から長崎空港への直行便が朝の時間帯のみの運航であったため、夕方発の便を利用し、福岡空港を経由して長崎に戻りました。直行便と比べると利便性はやや劣りましたが、現地での滞在時間をできるだけ長く確保でき、有意義な時間を過ごすことができました。

今回の研修旅行は2泊3日という短い日程でしたが、非常に充実しており、あっという間に感じられました。講座のメンバーと行動を共にする中で、互いの距離も縮まり、より一層親睦を深めることができました。

また、実際に現地で言語を使い、文化や人々に触れたことで、韓国に対する興味・関心がこれまで以上に高まりました。そして韓国で出会った皆さんが本当に親切に対応してくださり、優しさに触れることが数多くありました。こうしたふれあいを通じ

て改めて国際交流の意義を感じる事ができました。教室で学ぶだけでなく、現地で実践することの重要性を改めて実感し、言語を学ぶことは単なる知識の習得ではなく、人と人をつなぐ大切な手段であると感じました。

本研修で得た経験を今後の韓国語学習に生かし、さらなる語学力向上と国際理解の深化につなげていきたいと考えています。